

研究会開催通知

(昭和 53 年 11 月 15 日～12 月 31 日)

研究会	日	時	会場	備考
計算機アーキテクチャ	11月15日(水)	9:30～16:30	大阪大学	前号参照
データベース管理システム	11月16日(木)	14:00～17:00	機械振興会館	同上
計算言語学	11月17日(金)	14:00～17:00	同上	同上
人工知能と対話技法	11月17日(金)	15:00～17:00	電総研	同上
イメージ・プロセッシング	11月24日(金)	14:00～17:00	電波研	同上
コンピュータ・ネットワーク	12月14日(木)	14:00～17:00	機械振興会館	下記参照
マイクロコンピュータ	12月18日(月)	14:00～17:00	同上	同上

◆ 第 18 回 コンピュータ・ネットワーク研究会

(主査：高島堅助，代表幹事：苗村憲司)

- 日時 昭和 53 年 12 月 14 日 (木) 午後 2 時～5 時
会場 機械振興会館 6 階 65 号室
[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線神谷町，都営 1 号線大門，都営 6 号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：新橋一汐谷線東京タワー，等々力ー東京駅八重洲口線飯倉 1 丁目下車，Tel. 03 (434) 8211]
- 議題 (1) 階層型ネットワークの構築と複数アプリケーションの運用事例
橋本茂司，村上昌生，藤川和男 (東レ・システム)
[概要] センタを中核として，幹線をハイレベル手順による計算機間通信システム，その他全国にまたがる工場取引先間をベーシック手順でネットワークを構築した．各種アプリケーションがどのように運用されているかについて述べる．
- (2) T-NET の再結合プロトコルと仮想網
川合英俊 (電総研)，海老原義彦 (筑波大)，八重樫純樹，高橋 薫，野口正一 (東北大・通研)
[概要] 電話網による計算機網で，電話の取次ぎを行うと網の仮想化に一步近づけることができる．その方向の技術的問題点を指摘する．
- (3) データ交換網における蓄積サービスについて
村瀬節雄，神村哲也，大西広一，岡田忠信 (電電・武蔵野通研)
[概要] データ交換網 (回線交換・パケット交換) にて提供する蓄積サービスのサービス仕様，蓄積サービス・プロトコル，ファクシミリ端末プロトコル，などについての検討結果を述べる．
- (4) 通信制御装置における回線の優先処理を考慮した性能解析手法について
太田元助 (日立・システム開発研)

〔概要〕 キャラクタバッファ方式において、高速回線側を優先処理したときの収容可能回線数算出法の一案を述べる。

◆ 第7回 マイクロコンピュータ研究会

(主査：森 亮一，代表幹事：田島守彦)

日 時 昭和 53 年 12 月 18 日 (月) 午後 2 時～5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 [所在地は前記参照]

議 題 (1) シャープ (株) におけるマイクロコンピュータ応用の現状

禿 節史，木村征二 (シャープ)

〔概要〕 シャープ (株) におけるワンチップマイコンおよび汎用マイクロプロセッサの応用についてその概要を報告する。

(2) マイコン応用・開発支援システム

森 憲敬，堀井 洋 (三洋電機)

〔概要〕 社内におけるマイコン応用開発の効率化のため、汎用的な開発支援ツールの開発を進めているので報告する。

(3) 民生家電機器へのマイクロコンピュータの応用動向

真弓和昭，榎木好明 (松下電器産業・中研)

〔概要〕 民生家電機器は従来機能の代替，機能の拡充，新機能の創造のため MC を導入した。センサやアクチュエータのコスト高，表示方法や操作手順の不統一等の問題点もある。

昭和 53 年 11 月 17 日 (金) 開催予定の計算言語学研究会に，追加発表がありますのでお知らせいたします。

議 題 (3) 計算言語学国際会議 COLING '78 報告

長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 ベルゲンで開催された計算言語学国際会議の概要を報告する。

創立 20 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 20 周年を記念して，下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆様には奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員 (正会員又は学生会員) であること。応募論文は下記の部門に分けて審査する。

第 1 部門 昭和 54 年 3 月末現在の学生会員又は 30 歳未満の正会員を対象とする。

第 2 部門 第 1 部門以外の正会員を対象とする。

ただし，同一論文に第 1，第 2 両部門の対象となる会員が含まれる場合は

第2部門として取扱う。

2. 論文の性格と書き方

- ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。
- イ. 「情報処理」原稿執筆案内の書き方によるが、制限ページ数は12ページとする。ただし、論文はできるだけ簡けつにまとめることが望ましい。
- ウ. 論文は邦文に限る。
- エ. 論文には応募資格部門を明記すること。
- オ. 論文は正論文1部およびコピー5部を提出すること。

3. 応募方法と論文の書き方

- ア. 応募論文の受付期間は昭和54年1月1日から8月31日までとする。
- イ. 応募論文は記念論文査読委員の査読に基づき、記念論文選考委員会で採否を決定する。原則として論文の著者に照会することはしないが、採択決定後に執筆について助言することがある。
- ウ. 記念論文選考委員会は第1部門および第2部門につき、それぞれ下記を限度として受賞論文を選定する。

第1部門： 3件以内

第2部門： 5件以内

上記の受賞論文のうち、特に優秀なもの3件以内を入选論文とし、その他を佳作論文とする。

- エ. 選考結果は昭和54年12月31日までに論文の著者に通知する。
- オ. 選考結果は「創立20周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰を行う。
- カ. 受賞論文は「創立20周年記念会誌」に掲載し、又「創立20周年記念全国大会」において講演発表する。
- キ. 応募論文はIFIP Congress 80の論文と重複しないよう注意すること。重複した場合は受賞を取り消すことがある。
- ク. 入賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

4. 表 彰

- ア. 各入选論文の著者の1人（原則として第一著者）に対しIFIP Congress 80参加費（日本—オーストラリア間交通費、会期中のオーストラリア滞在費、および登録費）を学会が負担する。ただし、参加者はIFIP Congress 80報告書を提出する。
- イ. 各佳作論文の著者の1人（原則として第一著者）に対しIFIP Congress 80登録費を学会が負担する。
- ウ. 受賞論文のすべての著者に対する表彰状および記念品を授与する。
- エ. 受賞論文1編につき論文別刷100部を贈呈する。

5. そ の 他

不明の事項については本学会事務局に問合せること。



第 8 回 世界コンピュータ会議のご案内

(IFIP CONGRESS '80)



主 催

情報処理国際連合 (IFIP), (社)情報処理学会 (IPSJ), オーストラリア コンピュータ学会 (ACS)

協 賛

(社)応用物理学会, (社)計測自動制御学会, (社)テレビジョン学会, (社)電気学会,
(社)電子通信学会, (社)土木学会, (社)日本エム・イー学会, (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会, (社)日本機械学会, (社)日本建築学会, (社)日本原子力学会,
(社)日本航空宇宙学会, (社)日本数学会, (社)日本造船学会, (社)日本統計学会,
(社)日本品質管理学会, (社)日本物理学会 (50 音順)

後 援

日本学術会議, 文部省*, 行政管理庁, 科学技術庁, 厚生省*, 通商産業省, 運輸省, 郵政省*. (予定)

I. 会議の目的と意義

情報処理国際連合 (IFIP) は, 各国の情報処理学会またはこれに相当する団体 (一国一団体) が加盟して組織され, 本部はジュネーブにあります. 1978 年現在の加盟国は, 米, ソ, ヨーロッパ諸国をはじめ情報処理に関する研究, 教育, 産業および応用が進んでいる 35 ヶ国で, アジアからの加盟は日本およびインドの 2 ヶ国です.

IFIP 設立の由来は, 1959 年パリで開催された UNESCO 主催の「情報処理に関する国際会議」において発議され, 翌 1960 年加盟 14 ヶ国により設立されました.

IFIP 大会は IFIP の設立主旨にのっとり, 情報処理という新しい学術分野における国際協力体制づくりをリードし, 世界的な情報科学技術の知識交流の場をつくりあげingことを意図しており, 同時に開催する情報処理展示会は, その時点における世界の情報処理技術の実情を認識させる場を提供することを目的としています.

また, 第 8 回大会を開催する 1980 年は, 情報処理学会の創立 20 周年にあっています. 創立以来 IFIP 大会において積極的に研究発表を行ってきた当学会として, 創立 20 周年記念事業の一環として日本で第 8 回大会を実施できることは極めて意義深いことと考えております.

II. 会期と場所

日本大会の行われる千代田区平河町周辺一帯は, 近代的設備を誇る海運クラブ, 全共連ビル, 砂防会館等が隣接して効果的会議運営に便利な他, 赤坂東急ホテル, 赤坂プリンスホテル, 都市センター・ホテル等宿泊施設に当てられるホテル群と共に合計 10 会場に及ぶ一大コンプレックスを形成し, とりわけ, 開会式場に当てられる国立劇場は, 本大会の圧巻となっております.

(1) 会 議

会 期 昭和 55 年 (1980 年) 10 月 6 日 (月)~10 月 9 日 (木)

会 場 東京 (千代田区平河町周辺)

(2) 連合展示会

会 期 昭和 55 年 (1980 年) 10 月 3 日 (金)~10 月 8 日 (水)

会 場 東京国際貿易センター

- (3) 豪州では会議, 展示会を日本大会の翌週昭和 55 年 (1980 年) 10 月 14 日 (火) ~10 月 17 日 (金), メルボルンで開催

III. 日本大会の概要

1. 会 議

- (1) 日 程

	5 (日)	6 (月)	7 (火)	8 (水)	9 (木)
午 前	登 録	開 会 式 記 念 講 演	講 演	講 演	講 演
午 後	登 録	講 演	講 演	講 演	講 演 閉 会 式
夕	Welcome Party (予 定)			Banquet (有 料)	

一般講演は 5 つの会場で並行して行う予定ですが, 詳細については追ってご案内いたします。

- (2) 論文発表の内容

記念講演, 招待講演(約 24 件), 一般講演 (約 120 件), 学術映画

- (3) 会議公用語

英 語

- (4) 同時通訳

英語, 日本語の同時通訳を行います。

- (5) 見学会その他の行事

研究所, 大学および工場などの施設見学を行います。

- (6) 参加国

全世界約 50 か国の参加を予定しています。

- (7) 参加予定人数

現時点では参加各国から

日本のみ参加者 1,200 人 } 合計 1,800 人を予定しております。
日豪両国への参加者 600 人 }

2. 連合展示会

論文発表と並行し, DATA SHOW 80, MEDINFO 80 と共催で情報処理技術の進歩を示す「情報処理連合展示会」を下記の規模で行うことを予定しています。

- (1) 展示出品社数 約 150 社

- (2) 期 日 昭和 55 年 10 月 3 日 (金)~8 日 (水) の 6 日間

- (3) 展 示 場 東京国際貿易センター 東館 3,500 m²

DATA SHOW 80: (社)日本電子工業振興協会が主催して毎年行う情報処理
関連技術の展示会

MEDINFO 80: 1980 年医療情報科学国際会議 (9 月 29 日 (月) ~10 月 4
日 (土))

IV. 会議参加費

参加費は 44,000 円の予定です.

V. 論文発表プログラム

現在, 下記のようなテーマの部会 (Session) が計画されております. 発表論文数は約 145 件の予定です.

テ ー マ	発 表 会 場
Information Systems	東京, メルボルン
Hardware	東京
Computer Architecture and Software	東京, メルボルン
Theoretical Foundations of Information Processing	東京
Computer Aided Design	東京
Computer in Science and Engineering	メルボルン
Industry, Business and Governmental Applications	東京, メルボルン
Networks	東京, メルボルン
Education	メルボルン
Social and Economic Implications	メルボルン
Computers in Every Day Life	東京, メルボルン

VI. 論文募集要領

論文募集要領の詳細については, 次回ご案内いたします.

VII. 団 体 便

海外から東京会場へ参加される方や, 日本からメルボルン会場へ参加される方への航空便については, 通常料金より 20~25% 割安の団体便を計画中ですが, 詳細については追ってご案内いたします.

欧文誌 “JIP” のご購入について

欧文誌 “Journal of Information Processing” (略称 JIP) は, 4月に創刊されました. 第3号は11月中旬に発行される予定です. 購読希望の方は, 第19巻1号あるいは2号の本欄の申込用紙をご利用のうえ, お申し込みください.

シンポジウム「ソフトウェア・ツール」開催のお知らせ

ソフトウェアの具体的開発過程に際しては、多数のツールが利用されている。本シンポジウムでは、一般的に世にあるツールの単なる羅列ではなく、改めて「ソフトウェア・ツールとは何か」を問い、その背景にある思想と実体を国際的視野から明らかにしたうえで、実際の効用、限界など適切な批判と将来の展望を参加者の深い討論により深めようとするものである。

会員各位におかれましては、あらかじめ日程を調整されまして多数参加されることを期待いたします。

開催日 昭和54年1月31日(水)～2月2日(金) 3日間

会場 機械振興会館大ホール (地下2階)

参加費 12,000円 (非会員 18,000円, 資料代を含む)

プログラム セッション1 基調講演 (ソフトウェア・ツールの理論と実際)

セッション2 設計用ツール

セッション3 基本ソフトウェアの記述ツール

セッション4 応用ソフトウェアの記述ツール

セッション5 ソフトウェア作成・製造ツール

セッション6 デバッグとテストのツール

セッション7 ソフトウェアの解析と評価のツール

セッション8 ソフトウェア・メンテナンスの基本と実際

セッション9 プロジェクト管理のツール

今回のシンポジウムは、宿泊形式ではありません。なお、参加者の交流を深めるため、レセプション (有料) を計画しています。

各セッションの詳細および参加申込等につきましては、次号でお知らせいたします。

日米コンピュータ会議論文集の頒布について

第3回日米コンピュータ会議は、去る10月10～12日にサンフランシスコ市で盛会裏に無事終了いたしました。

同会議論文集 (プロシーディングス) の頒布価、方法については、次号本欄にお知らせしますので、ご了承ください。

「情報処理学会論文誌」購読・登録のご案内

1979年1月に現在刊行中の「情報処理」の中から、論文、ショート・ノート、誌上討論など、最新の研究成果を中心とした研究発表の場として、「情報処理学会論文誌」を分冊し、隔月（奇数月の15日発行、B5判、約100ページ）に発行します。欧文誌「JIP」と併せて是非とも購読されますようご案内申し上げます。

論文誌の購読は1月～12月の年間単位とし、購読料はつぎの通りです。

- | | | | |
|--------------|----------------|--------|-----------|
| (1) 年間購読料 | 会員 | 4,500円 | } (送料を含む) |
| | 非会員 | 7,800円 | |
| (2) 一般頒布価格 | 1冊 | 1,500円 | (送料別) |
| (3) 中途からの購読料 | 年間購読料 / 6 × 冊数 | | |

なお、購読は本会員の研究者が主体ですので、長期的に継続するものとして取扱います。購読者は以下の事項にご注意ください。

- (1) 購読を中止される場合は、必ず12月中に書面（ハガキも可）でご連絡ください。
- (2) 途中で購読を中止された場合は、すでに送付した論文誌を一般頒布価格で買い取っていただくこととなります。

申込みは、前号添付の購読申込書に必要事項を記入し、代金を添えて「情報処理学会論文誌係」宛お申し込みください。（申込書にある注意5の〒115は〒105の誤りです。訂正ください。）
Vol. 20, No. 1の予定目次は、つぎの通りです。

論 文

人間による乱数列をマルコフ連鎖としてみたときの特性……………	橘 文 夫
Bフレーム・Mフレームを使用したミニコンリスプ FLISP ……………	東出 正裕 他
MLTG—マイクロプログラミング・ランゲージ・トランスレーション・ ジェネレータ……………	牧之内顕文 他
Catalan 数の拡張とその応用……………	今 井 貞 三
常微分方程式数値解法的设计……………	渡辺嘉二郎 他
頂点辞書を利用して距離画像解析……………	杉 原 厚 吉
ブール行列の乗算アルゴリズムの高速化について……………	高岡 忠雄 他
スパース構造の連立一次方程式に対する Householder 法 ……………	平 野 泰 彦
ソフトウェア・モニタの方式設計とその応用……………	宮崎 正俊 他
組合せ回路における多重故障の検出……………	中 村 彰
マクロ・アセンブラ・ジェネレータの開発……………	渡辺 道生 他
データベース照会システム「ヤチマタ」と名詞句データ模型……………	藤崎哲之助 他

ショート・ノート

マクロコマンドによるソースプログラム生成方式の簡易形情報検索システム……………	清野 武 他
紀一誠著“資源切り出し型待ち行列の解析”について……………	伊澤喜三男 他
複素数の累乗根および逆数を求める反復法について……………	佐 藤 幸 平

欧文誌の原稿募集について

本年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ、A4判

(2) 純学研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。

(i) Paper(原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note(2ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paperのアブストラクト——200語以内

(ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) オリジナル原稿とコピー3部、計4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000